

# 2024年度事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人フードバンク仙台

## 1 事業の成果

物価高騰によって、十分な食料の購入が困難な生活困窮者が大きく増加するなか、2024年度においても引き続き「フードバンク活動を通じた生活困窮者への食料提供事業」を実施した。具体的には、市民や企業から食料の寄付を集め、仙台市内の生活困窮者の自宅に食料パッケージを配送した。2024年度の個人世帯向け食料支援数はのべ人数7092人となり2020年5月の立ち上げ以来、最多の人数となった。なお、2024年度に食糧支援を利用したのべ世帯は3164世帯、実人数は3298人、実世帯数は1422世帯であった。他の困窮者支援団体に対する食料の提供は、休眠預金事業を通して大きく増加した。

また、食料支援のみでは生活困窮の背景にある様々な構造的要因を改善することができないため、「困窮者を必要な支援や制度、福祉サービス、相談機関等に繋ぐ生活相談事業」として、食料提供事業の利用者や相談を希望する生活困窮者を対象に、社会保障制度の利用、債務整理、職場環境の改善等の助言や利用に必要なサポートを行った。上記2事業により、仙台市内の飢餓・低栄養状態にある生活困窮者の生存権を守り、心身の健康と尊厳を保つことに寄与した。

2024年度当初は歴史的な物価高騰の中で食料の寄付量が減少傾向にあった。特に、米の寄付量減少は深刻であり、6月以降は一人一回当たりの米の配布量を3キロから2キロに減らさざるを得なくなった。近年は、当団体のみならず、全国のフードバンク団体の多くが食料寄付量の減少に悩まされている。

そこで2024年度は「調査研究及び政策提言する事業」の一環として、7月に全国のフードバンク団体に食品や米の寄付量の変化についてのアンケート調査を行った。その結果、同調査に回答した66団体のうち、7割の団体で食料寄付が減少していることがわかり、多くの団体が支援の質に悪影響を受けている実態も判明した。当団体はこの事実を記者会見によって全国メディアに取り上げてもらい、食糧支援の現場の厳しい現状や、社会的な支援の必要性について世論喚起と政策提言を行った。

また当団体が実施する「食品ロスの削減に関する事業」では、当団体に参加したボランティアや一般市民を対象に啓発活動を行い、食品寄付の受け入れの拡大を通じて、実際に食品ロスの削減に寄与した。

「農作物生産や地産地消など持続可能な地域経済を構築する事業」では前年度に引き続き、農地を借りてボランティアが実際に野菜を生産し、生活困窮者や生活困窮者を支援する団体に提供をした。2024年度は生産する作物の種類も増加させるなどの工夫を

行った。

「生活困窮者等に向けた居場所の提供事業」は事業計画に記載した通り、2024 年度は実施しなかった。ただし、支援の現場の必要性や社会的な需要なども見込みながら、必要性が高まった際に実施できる体制を維持する。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名<br>(定款に記載した事業)                 | 具体的な事業内容                                                                                          | 実施日時         | 実施場所      | 従事者  | 受益対象者・人数                                                                                           |
|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| フードバンク活動を通じた生活困窮者への食料提供事業          | 市民や企業から食料の寄付を集め、仙台市内の生活困窮者の自宅に食料パッケージを配送する。また必要に応じ配布会を開催する。                                       | 通年           | 仙台市内各所    | 130人 | ①仙台市内の生活困窮世帯のべ人数 7092 人（実人数 3 2 9 8 人）、のべ世帯 3 1 6 4 世帯（実世帯数 1 4 2 2 世帯）<br>②困窮者支援団体への提供食品重量約 36 トン |
| 困窮者を必要な支援や制度、福祉サービス、相談機関等に繋ぐ生活相談事業 | 食料提供事業の利用者や相談を希望する生活困窮者を対象に、社会保障制度の利用、債務整理、職場環境の改善等の助言や利用に必要なサポートを行う。またスタッフ・ボランティアに支援に必要な研修を実施する。 | 通年           | 仙台市内各所    | 15人  | 生活相談のニーズを持つ仙台市民 200 人                                                                              |
| 生活困窮者等に向けた居場所の提供事業                 | 食を通じた居場所や地域コミュニティを運営することで支援対象者に対する相談援助を行き届かせる                                                     | 2024 年度は実施せず | 仙台市内各所    | 0人   | 仙台市内の生活困窮者及び、一般市民                                                                                  |
| 調査研究及び政策提言する事業                     | 貧困や飢餓の克服に関連する調査研究や、同目的を達成するために必要な政策の提言を行う。                                                        | 随時           | 主たる事務所、仙台 | 10人  | 一般市民不特定多数                                                                                          |

|                                                      |                                             |    |                |         |                                |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------|----|----------------|---------|--------------------------------|
|                                                      |                                             |    | 市内<br>各所       |         |                                |
| 食品ロスの<br>削減に関<br>する事業                                | 啓発活動を行い、フードバ<br>ンク仙台への寄付を通じて<br>食品ロスを削減する。  | 通年 | 仙台<br>市各<br>所  | 10<br>人 | 一般市民不特定多数                      |
| 農作物生産<br>や地産地<br>消など持<br>続可能な<br>地域経済<br>を構築す<br>る事業 | 農地を運営し生産した食料<br>をもとに生活困窮者に対し<br>食を通じて生存を支える | 通年 | 仙台<br>市若<br>林区 | 10<br>人 | 仙台市内の生活困窮者<br>及び、一般市民不特定<br>多数 |

(2) その他の事業

定款に定めがなく、実施しない。